令和５年度　入学試験問題

小論文

（芸術・スポーツ文化学科スポーツ文化専攻アウトドア・ライフコース　一般選抜（前期日程））

注意事項

1　試験開始の合図があるまでは，この問題冊子を開かないこと。

2　この問題冊子は，表紙を含めて４ページ，解答用紙は1枚，下書き用紙は１枚あります。

3　「問１」「問２」すべてに解答すること。

4　解答用紙は、「問１」「問２」合わせて１枚です。

5　解答は解答用紙に横書きとし，句読点および段落の空白も１文字とし，指定された字数内でまとめること。ただし，題・氏名は記入しないこと。

6　受験番号は，解答用紙の指定欄に記入すること。

7　解答用紙１枚を提出し，問題冊子・下書き用紙は，試験終了後持ち帰ること。なお，いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。

8　試験中に，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は，手を挙げて監督者に知らせること。

近年では、環境問題の解決に際し、それぞれ異なる思惑や立場の人たちがいることを前提に話し合って合意形成※することが重要とされている。しかし、環境問題においては「利害関係者の思惑が異なるため意見が一致せず、解決策が見い出しづらくなる状況」も起こりがちになっている。

問題　合意形成に関する次の文章を読み、後の問１と問２に答えなさい。

タイトル「ルールはルールだよ」

ぼくは小学４年生の勇二です。さいきん、クラスの男子の間では、ちいきの方に昔遊びを教えてもらってから、カンケリがはやっています。ぼくには１年生の時からの仲よしの光男という友だちがいます。光男は運動が苦手で、昼休みは教室や図書室で本を読んでいるか、ぼくたちが遊んでいるのを遠くからながめています。

そんな光男をカンケリにさそうのですが、いつもわらうだけで、入ってきてくれません。ぼくは、（カンケリだと、少しぐらい走るのがおそくても楽しく遊べるのに）と心の中で思っていました。

運動場はいつものようにおおぜいの子どもたちでにぎわっています。ドッジボール、鉄ぼうの近くで一輪車に夢中になっている人たち、ジャングルジムのほうからも低学年の子どもたちのかん声が聞こえてきます。

ぼくは、カンケリを早くしたくて、あきかんを持って急いで明男といっしょに運動場にかけ出しました。でも、お決まりの場所にいつもの仲間はだれも来ていません。

「けんいちとよしおが係の仕事で、たぶん遊べないんだって……。」

と、後ろのほうから和也の大きな声が聞こえてきました。

「たった３人では、カンケリなんておもしろくないよ。だれかさがさなきゃ……。」

と明男があわてたようすで話しかけてきました。

さがすといっても、みんなそれぞれ楽しそうに遊んでいます。そんなとき明男が、ぼくたちのほうを見ている光男に気がついて、入ってもらおうと言いだしました。もちろん、ぼくは大さんせいです。そして、メンバーが足りなかったので、光男をさそいに走って行きました。

「光男。いっしょにカンケリして遊ぼうよ、楽しいよ。３人しかいないんだ、たのむよ。」

光男はこまったような顔をして、

「え、ぼくが……。おそいから、いやだよ。」

と、うつむきながら答えました。

「足の速いおそいはそんなにかんけいないよ。いっしょに遊ぼう、たのむよ。」

仲よしのぼくが何度もさそうので、光男もやってみようという気になってくれました。

それで、いつものようにカンケリが始まりました。さいしょは明男がおにになりましたが、その

うち光男がつかまってしまいました。おにになった最初は楽しそうだった光男ですが、5 回も続けざまにカンをけられてしまってからは、ようすがおかしくなりました。走るのがとてもつらそうだし、元気がなくてつまらなそうに見えました。そこでぼくは、

「おーい、タイム！　みんなちょっと出てきてよ。」

と、大きな声を出してみんなを集めました。かくれていた明男と和也がびっくりした顔をして出てきました。みんながそろったところで、ぼくは、

「これじゃ光男がいつまでやっても交代できないし、かわいそうだよ。もう交代しようよ。」

と話しかけました。すると、和也が不満ありげにすぐさま言い返してきました。

「ぼくだってあまり速くはないけどやっているんだ。勇二は光男と仲がいいからそんなことを言うんだろ。」

「だって、みんなだっておもしろくないだろう。光男だけルールを変えてもいいだろう。」

と、ぼくはお願いするように言いました。

そんなやりとりを聞いていた明男がうで組みをしながら、

「光男がずっとおにだとつまらないよ。かくれがいもないし、走りがいがないよ。スリルがないもん。やっぱり、光男は見学してたほうがよかったよ。」

と、小さな声でぼそっとつぶやきました。それを聞いた和也も、

「そうだ、光男だけを特別ルールにするなら、ぼくは遊ばないよ。ルールはルールだよ。」

と言ってきました。何だか、がまんできなくなってきたぼくは、

「せっかく光男に入ってもらってカンケリを始めたのに、そんなことを言うなよ。みんな勝手だよ。楽しくやろうよ。」

と、少し強い口調で言ったものの、どうしたらよいかこまってしまいました。みんなもそれを聞いて、どうしたらいいか考えこんでしまいました。光男は下を向いたままで、何も言いません。

ぼくもみんながなっとくしてくれないので、だんだん元気がなくなり、どうしてよいかわからなくなってきました。

出典：荒木紀幸編著（2017）『考える道徳を創る　小学校　新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書，66-67．を一部改変。

問１　ぼく（勇二）・光男・明男・和也の「困っていること・考えていること」を簡潔にまとめ、それぞれ20字程度で述べなさい。（20点×４）

問２　あなたが問題文にある事例の解決を促す立場にある場合、あなた自身が解決策を提示するのではなく、全員が話し合って納得する形で問題を収束させるためにどうするかを600字～700字で述べなさい。（120点）

※合意形成…誰かが一方的に我慢するのではなく、みんなが納得できるような解決法を得ること